

学びの姿の見取り 児童の姿で語り合うための工夫①「みる視点」の焦点化

授業者や管理職、研究推進委員と協議のうえ、各回の研究授業で参観の視点を定め、校内研究通信を通じて具体的に示しました。

みる視点

今日は、「読むこと」を目標とされています。
「どんな本をつくるか」の中から、自分が「着すこ」と思うヒーバーの行動を選び、その理由をプリントに書きます。そのあとに、グループで交流し、グループの1番すこいを決めます。

友だちと意見を交流することによって……

意見が変わる字もいるかもしれません。
理由をもっと分かりやすく書き換える字もいるかもしれません。
友だちの考えに「なるほど」と納得する姿があるかもしれません。

系統後での2年生の話し合いの目指す姿は

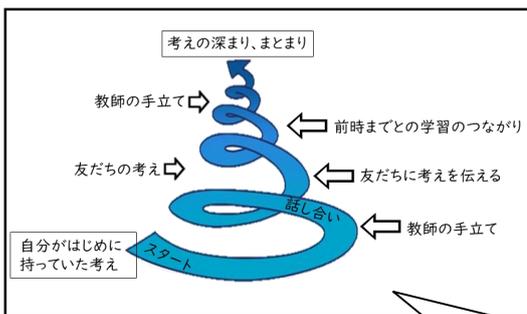
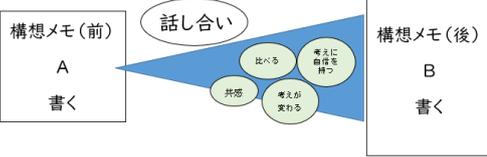
「うなずいたり、反応したりし、最後まで話を聞く。」
「相手の話を想像しながら聞く。」
となります。聞くことにより、子どもが反応したり、考えを応める姿が、観察や振り返りなどから見られると、手立てとして話し合いの活動を入れた結果に表れたと言えますね。

平木先生は前田の菅野先生の授業から教材とじっくり向き合う時間をとるということを知られ、今回の授業では、子どもに事前に「すこい」とあつこくはしゃいで話を引き出す(すこい)活動を入れたいと考えています。前田からのつながりがいいですね！

<イメージ図>



事前に…… ①ヒーバーの大工事を読む
②授業アップデートシート、前田のふり返り、今回のめあてを書く
※教材とじっくり向き合う時間を(ざりざりに配布済みです)お願いします。



若手、ベテラン、養護教諭等、経験年数や役職に関係なく、共通の視点をもって話す様子

「みる視点」を示した校内研究通信(一部)

時には、図を使って説明をし、誰にでも分かるように心がけました。

「みる視点」が焦点化されたことにより、若手からベテランまで同じ土台で話ができるようになりました。目指す児童の姿の実現に向けて取り入れている手立てを意識し、実際にはどのような姿だったのか、その手立てによって児童がどのように変わっていったのか、を見るという授業の見方が身に付いてきました。(B小学校 校内研究主任)